令和 8 年(2026 年)11 月 20 日国立大学法人 三重大学
赤福グループ
トスコ株式会社
長谷虎紡績株式会社
株式会社 HOSOO

NEWS RELEASE

三重大学・赤福グループ・HOSOO ら産学 5 機関「日本大麻※1」の高級繊維産業化へ基本協定締結

― 原料生産から製品化まで国内一貫体制を構築し、2033 年の安定供給を目指す ―

【概要】
国立大学法人三重大学 神事・産業・医療用大麻研究センター、赤福グループ、トスコ株式会社、長谷虎紡績株式会社、株式会社 HOSOO は、産学連携により未来素材として世界的に注目される産業用大麻(ヘンプ)に着目し、その国産版として、日本で古くから利用されてきた「日本大麻※1」の原料生産から素材開発、製品化、販売までを国内で一貫して行う新たな産業基盤の構築、そのための共同プロジェクトの始動に向け、基本協定の調印を、2026 年 11 月 20 日におこないました。今回の取り組みを通じて、日本大麻をリエンジニアリングし、日本ならではの高付加価値な繊維産業を創出することを目指します。日本ではかつて、地域ごとの風土や用途に適した大麻が栽培され、その特性を引き出す栽培・加工技術とともに、質の高い大麻布が生み出されてきました。
近年、産業用大麻は、多機能性や用途の多様性、環境負荷低減※3 への期待などから次世代素材として世界的に注目されており、日本国内でも法改正※2 により、大麻草の栽培に関する規制の見直しが進んでいます。
共同プロジェクトでは、現在、原料生産や原料加工など、海外に依存している一部の上流工程を、段階的に国内へ移行し、原料生産から製品化までを国内でつなぐバリューチェーンの構築を目指します。

【プロジェクトにおける各社の役割】
共同プロジェクトでは、三重大学 神事・産業・医療用大麻研究センターが日本大麻の在来種の研究、種子開発、生産指導を担い、赤福グループが農家と連携して原料となる日本大麻の生産・加工体制を構築します。さらに、麻素材の紡績に専門的な知見とノウハウを持つトスコと、綿紡績や多様な素材開発で培った技術・知見を持つ長谷虎紡績が連携し、日本大麻の特性を生かした高品質な大麻糸の紡績技術の確立に取り組みます。あわせて、綿紡績設備の活用など、大麻繊維を幅広い紡績設備で扱えるよう紡績技術の汎用化を進め、加工プロセスの最適化や新たな素材開発を推進します。HOSOO は、大麻繊維ブランド「HOSOO Artisanal Hemp※4」の国内外での展開実績も踏まえ、高級織物の開発から製品化、国内外での販売までを手掛けます。
それぞれの専門性を結集し、原料から最終製品までを一貫して国内生産する新たなバリューチェーンを構築し、日本大麻ならではの品質と価値を備えた素材を開発。国内外のラグジュアリーブランドをはじめとする市場への展開を目指します。



【マイルストーンについて】

国内での産業化に向けて、国産品種と現在海外から供給されている品種の成分・性能を比較しながら、既存の原料加工技術の最適化を進めていきます。2027 年度には、繊維としての高い品質と加工負荷の低減の両立を目指して品種改良を進め、日本大麻の小規模な実証・試作を開始します。あわせて、原料加工工程での酵素処理の実用化などサプライチェーンを段階的に構築していきます。2028 年度以降は独自品種の開発と産地ネットワークの形成、次世代の独自加工技術の確立を進め、量産・事業化へと移行します。

また、伊勢神宮の式年遷宮年にあたる 2033 年を目標に、国産原料による生地の安定供給体制、および国内完結バリューチェーンの基盤整備を完成させ、産業規模での展開を目指します。この他、副産物の用途開発も進め、複数産業での事業化を検討しています。

【本件に関するお問い合わせ先】	【三重大学の研究に関するお問合せ】
日本大麻高級繊維産業化プロジェクト広報事務局 （株式会社プラップジャパン内） TEL：090-6352-2280（宮田）、 080-5712-7123（小椋） E-mail：hemp_pj@prap.cp.jp	国立大学法人三重大学 神事・産業・医療用大麻研究センター事務局 （地域創生推進チーム） Tel 059-231-6272 info.cannabis@cimc.mie-u.ac.jp



【今後の目標】

式年遷宮年にあたる 2033 年を一つの節目として、①複数産地での日本大麻の生産体制を構築すること、②多用途・多機能素材としての大麻の特性を生かし、高級繊維に加えて、副産物を含む複数の用途・製品領域で段階的な事業化を進めること、③これらを効率的かつ継続的に実現するため、大学、生産者、加工、紡績、織物、ブランドなどの企業・機関が参画する産業ネットワークを形成することを目指します。

また、こうした歴史の中で培われてきた知恵や技術を起点に、日本在来種の研究・品種開発から、農業、紡績、素材開発、織物まで、各分野の専門性を結集します。過去の技術をそのまま再現するのではなく、科学的な研究と現代の生産・加工技術によって再構築することで、日本大麻の特性を生かした新たな素材の開発を行います。

さらに、原料生産から製品化、販売までを国内でつなぎ、日本大麻の高付加価値化とブランド化を推進。国内外のラグジュアリー市場を視野に、日本の原料、技術、文化を生かした、世界市場で独自の価値を持つ繊維産業の確立を目指します。同時に、日本における大麻の歴史や文化、産業素材としての可能性を広く発信し、産業用大麻に対する社会的な理解の促進にも取り組みます。

【参画企業・研究機関のコメント】

三重大学大学院地域イノベーション学研究科 研究科長・教授 三重大学神事・産業・医療用大麻研究センター センター長 諏訪部圭太氏 コメント

大麻は古くから日本の神事や暮らしを支えてきた重要な農作物であり、未来の産業素材としても大きな可能性を秘めています。一方、植物としては未解明の部分が多く、研究者としても非常に興味深い存在です。特に、日本各地で受け継がれてきた在来種は、その特性や海外品種との違いについて科学的な検証が十分に進んでおらず、研究すべきことが数多く残されています。私たちは、こうした可能性を科学的に解明し、神事や伝統文化の継承、産業利用へとつなげるために研究センターを設立しました。目指すのは、学問的な探究に留まらず、研究成果を社会に還元することです。そのため、品種開発や栽培技術の確立だけでなく、製品化までを担う企業や地域との連携が欠かせません。今回の取り組みを起点に、日本各地で新たな挑戦

が生まれる大きな動きへと発展させたい。そして、大麻に対する社会の認識を変え、良いものと悪いものを明確に区別しながら日本の歴史や文化に基づく「新しい日本大麻文化」を築いていきたいと考えています。

赤福グループ（株式会社濱田カンパニー 代表取締役会長）濱田典保氏コメント

原点にあるのは、日本の神事を支えてきた国産大麻を伊勢から再興したいという思いです。
伊勢は古くから神事や信仰と深く結び付いてきた地域です。しかし、国内の大麻生産 者は減少を続け、全国各地の神事でも輸入品や代替素材に頼らざるを得ない場面が増えています。まずは地元の農家と連携し、休耕田や耕作放棄地も活用しながら、良質な大麻を安定的に生産する体制を築き、将来的には神事や伝統芸能の担い手にも広く使っていただける価格で供給したいと考えています。また、大麻や豆類は連作障害が生じる可能性がある一方、他の作物と組み合わせた輪作によって、農地の生産性向上につながることも期待されます。例えば、当社が小豆を調達している北海道で大麻と小豆を組み合わせた輪作にも可能性を感じています。大麻が新たな収入源となれば、小豆農家の経営を支え、農業の持続可能性にも貢献できるかもしれません。私たちが伊勢本店の横に開いた『おかげ横丁』を通じて伊勢の文化や魅力を発信してきたように、大麻の再興も地域の価値を高める 取り組みの一つだと考えています。日本の伝統文化を次世代へつなぎ、新たな産業を育てる挑戦を伊勢から始めたいと思っています。

トスコ株式会社 代表取締役社長 根本圭司氏 コメント

当社は 1918 年、日本古来から続く苧麻（ラミー）紡績を工業化し、産業として確立することを目指し創業しました。しかしながら、国内外に模倣すべき技術は乏しく、生産設備や機械の技術開発は自らの手で開発を行うなど、100 年以上にわたり麻の紡績技術を磨いてきました。日本の麻布研究の第一人者である吉田真一郎さんが、江戸期の手仕事でつくられた大麻布を機械紡績で再現するというプロジェクトを立ち上げた際に、私たちの技術を生かせば、それを可能にするのではないかと考えて挑戦しました。ラミーやリネンで培った乾式紡績の技術を応用した結果、湿式紡績とは異なる光沢感を持つヘンプの糸をつくることができました。今回、三重大学が取り組む品種改良によって、機械紡績に適した日本大麻が生まれる可能性にも期待しています。吉田さんが思い描いていた古来の大麻布を現代によみがえらせ、天然繊維の最高峰として、ラグジュアリーファッションの世界に根付かせていきたい。そして、日本のファッション文化をより豊かなものにする一助になれればと思っています。

長谷虎紡績株式会社 代表取締役社長 長谷享治氏 コメント

当社には「素材で世界を変える」というミッションがあります。そして日本大麻にも、世界を変えるほどの大きな可能性を感じています。繊維用途を重視してきた日本古来の大麻には、なめらかさと適度な張り、美しい光沢を備えた高品質な素材を生み出せる可能性があります。一方、大麻は繊維の特性から機械紡績が難しい素材でもあります。私たちには、どんなに難しい素材でも糸にしてきたという自負があります。そして、最終製品から逆算した素材開発にも長年携わってきました。こうした技術と経験、そして現代の技術と各社の専門性を掛け合わせることで、難題を乗り越え、新たな価値を生み出せると期待しています。日本大麻100%の高級素材はもちろん、機能性素材などとの組み合わせによって用途や市場を広げ、持続可能な産業として育てていきたいと考えています。目標は、綿 100%の T シャツと同じように、日本大麻を使った服が当たり前に店頭に並ぶ未来です。日本の伝統的な素材を次の世代へつなぎながら、新たな可能性を切り拓いていきたいと思います。

株式会社 HOSOO 代表取締役社長 細尾真孝氏 コメント

今、世界的にさまざまな分野で大麻が未来のサステナブル素材として注目されています。テキスタイル分野においても、石油由来の合成繊維や栽培に大量の水を必要とするコットンなど、既存繊維が抱える環境課題を考えると、大麻は大きな可能性を持っています。一方、日本では古くから大麻が栽培され、繊維をはじめ幅広い用途に活用されてきました。神事や日々の暮らしにも用いられるなど、日本の文化と深く結び付いてきた素材です。さらに、日本には繊維に適した独自の特性を持つ在来種が受け継がれています。日本ならではの大麻を、現代の技術によってどのように新たな素材として生かしていくか。それが今回の大きな挑戦です。日本の在来種が持つ可能性を最大限に引き出し、これまでにない品質と美しさを追求することで、「ラグジュアリーヘンプ」という新たなカテゴリーを確立したいと考えています。そして、将来的にはより幅広い用途や市場へと広げていきたいと考えています。

【用語解説】

※1：本プロジェクトで扱う大麻は、繊維利用を目的とした産業用大麻です。大麻に含まれる成分のうち、精神作用をもたらす THC（テトラヒドロカンナビノール）は、法令に基づく基準値の 0.3%以下であることが確認された品種を用い、適切な管理のもとで栽培・活用します。また、本プロジェクトで繊維素材として活用するのは茎の部分であり、葉や花（花穂）の部分は使用しません。薬物としての大麻とは用途や成分、管理方法が異なり、本プロジェクトでは、日本で古くから利用されてきた繊維素材としての大麻に着目しています。

※2：2023 年 12 月に「大麻取締法及び麻薬及び向精神薬取締法の一部を改正する法律」が公布され、2024 年 12 月および 2025 年 3 月に段階的に施行されました。これにより、医療・産業分野における大麻草の適正な利用に向けて、栽培制度や管理のあり方が見直されました。従来の「大麻取締法」は「大麻草の栽培の規制に関する法律」へ名称変更され、製品原料として大麻草を栽培するための免許区分や、THC 濃度に関する基準などが新たに整備されています。

※3：産業用大麻（ヘンプ）は、繊維・衣料だけでなく、建材、紙、複合素材、食品など幅広い用途に活用できる植物資源です。また、成長が早く、栽培時に農薬の使用を抑えられる場合があるほか、土壌流出の抑制や輪作への活用、成長過程での CO_2吸収など、環境負荷低減につながる特性も報告されています。こうした多機能性・用途の多様性・環境面での可能性から、サステナブルな次世代素材として世界的に注目されています。

※4：日本で古くから受け継がれてきた大麻布の文化を、現代の紡績・織物技術によって再構築することを目指し、「majotae」としてスタートした大麻繊維ブランド。100%大麻繊維による糸の開発を実現し、織物やプロダクトへの展開を通じて、日本の伝統素材である大麻の新たな可能性を国内外に発信してきました。その技術や知見、ブランドの思想は現在 HOSOO に継承され、日本大麻を次世代の高付加価値素材として発展させる取り組みを進めています。

【参画企業・研究機関について】

三重大学神事・産業・医療用大麻研究センター

1921 年に設立された三重高等農林学校に端を発し、農学部と学芸学部からなる新制国立大学として 1949 年に発足しました。その後、学部・研究科等の新設や組織改編を重ね、現在では 5 学部 6 研究科を擁する総合大学として、教育・研究活動を展開しています。

神事・産業・医療用大麻研究センターは、2022 年に学内プロジェクトとして発足し、同年に大麻取扱者免許（研究者免許）および麻薬研究者免許を取得するとともに、認可実験室、栽培温室、ならびに研究圃場を整備しました。さらに、2024 年には文部科学省の支援を受ける独立研究センターへと発展し、現在では学内 6 研究科から 18 名の教員が参画する学際的な研究拠点として、大麻に関する総合的な研究を推進しています。

住所：三重県津市栗真町屋町 1577

連絡先：info.cannabis@cimc.mie-u.ac.jp

学生数（大学,大学院）：7,318 名

教職員数：教員 759 名、職員 1,311 名　*学生、教職員共に 2026 年 4 月 1 日のデータ

赤福グループ（株式会社濱田カンパニー）

1707 年創業の株式会社赤福を始め、伊勢神宮内宮前おはらい町で「おかげ横丁」を運営する株式会社伊勢福等を赤福グループと総称しています。

本プロジェクトは、赤福グループの新規事業部門を展開する濱田カンパニーが担当します。

代表者：代表取締役会長　濱田　典保

所在地：三重県伊勢市宇治中之切町 26 番地

事業内容：菓子箱の製造・販売等

URL　：https://www.akafuku.co.jp/company/

トスコ株式会社

1918 年の創業以来、麻の総合一貫メーカーとして、独自技術を磨き、麻原草の品種改良・栽培から紡績、染色整理、テキスタイル生産まで一貫して行ってきた世界唯一の麻メーカーです。国内と中国に麻の紡績工場を持ち、一般衣料からインテリア、農業用・土木建設資材まで、幅広い用途に向けて素材を提供しています。「あらゆる活動を通して人々の生活心情を豊かにしていく」を基本理念に、日本において麻で NO.1の品質とサービスを提供する会社を目指しています。

代表者：代表取締役社長　根本 圭司

所在地　：東京都中央区日本橋人形町一丁目 1 番 10 号

創業　　：1918 年（大正 7 年）

事業内容：各種繊維及び繊維製品の製造、加工、販売

　　農業用資材、土木建設資材の製造、加工、販売

URL　：https://www.tosco-net.co.jp/

長谷虎紡績株式会社

1887 年、岐阜県羽島市にて創業。紡績事業ではシルクから麻・リネン、綿、合成繊維へと時代に合わせて進化を続けてきました。近年は二層構造糸の生産設備を導入し、長短複合糸などの生産体制を構築しました。インテリア事業においてもオフィスやホテルなどに向けた一般カーペット分野から自動車用マットなどのモビリティ分野まで幅広いニーズに対応しています。ビジョンに「素材で世界を、未来を変える」を掲げ、素材で世界の社会課題を解決することを目指しています。

代表者　:長谷 享治
所在地　:岐阜県羽島市江吉良町 197-1
創業　　:1887 年(明治 20 年)
事業内容:繊維製品の開発・製造
URL　　:http://www.hasetora.co.jp

株式会社 HOSOO

元禄元年(1688 年)、京都西陣において大寺院御用達の織屋として創業。京都の先染め織物である西陣織は 1200 年前から貴族をはじめ武士階級、さらには裕福な町人達の圧倒的な支持を受けて育まれてきました。HOSOO は今、帯やきものといった伝統的な西陣織の技術を継承しながら、革新的な技術とタイムレスなデザイン感性を加えることによって、唯一無二のテキスタイルを生み出し、国内外のラグジュアリーマーケットに向けて展開しています。

代表者　:細尾 真孝
所在地　:京都府京都市中京区柿本町 412
創業　　:1688 年(元禄元年)
事業内容:帯、きもの、インテリアファブリックの企画、製造卸、販売
URL　　:http://www.hosoo.co.jp

【本件に関するお問い合わせ先】	【三重大学の研究に関するお問合せ】
日本大麻高級繊維産業化プロジェクト広報事務局 (株式会社プラップジャパン内) TEL: 090-6352-2280(宮田)、 080-5712-7123(小椋) E-mail:hemp_pj@prap.co.jp	国立大学法人三重大学 神事・産業・医療用大麻研究センター事務局 (地域創生推進チーム) Tel 059-231-6272 info.cannabis@cimc.mie-u.ac.jp